R３地域協働研究（ステージⅡ）

R03-Ⅱ-05「未就学児の親子を対象とする教育福祉の複合的読書支援プログラムの実践」

課題提案者　北上市立中央図書館
研究代表者　社会福祉学部　櫻　幸恵
研究チーム員　児玉康宏（北上市立中央図書館）、下平なをみ（社会福祉学部）、
高橋美知子（うれし野こども図書室）

〈要旨〉

本研究では、「利用者の生活の中における図書館（the library in the life of the user）」の視点に則り、公立図書館と保健・福祉の部署が連携して地域の未就学児の親子を対象にした複合的読書支援プログラムを構築し実践検証を試みた。公立図書館を利用しない層や読書環境が整っていない家庭の親子が気軽に本を楽しめる機会を設けるため、幼稚園児等が自由に過ごせる図書館開放、乳幼児健診会場等で親子が良質な本に接する絵本空間の創設、読書習慣形成と子育て支援の複合的な親支援プログラム、配架の工夫や図書ボランティア養成など、複合的読書支援プログラムを多様に実施した。その結果、新たな図書館利用者やベストリーダーの変化、保護者の絵本や子育てへの意識変化に効果がみられた。

1　研究の概要（背景・目的等）

地域協働研究ステージⅠで2020年12月に行った北上市内の保育園・こども園に通園している３歳児・５歳児の保護者を対象とした「北上市子どもと絵本に関するアンケート」では、読書習慣や読書に対する意識、生活状況などについて質問紙調査を実施し、現状把握と課題抽出を行った。その結果、子どもの読書習慣形成には、家庭での読み聞かせや図書館利用など親の関わりが大きく影響していた。一方、世帯収入や親の時間のなさ等の環境要因により、家庭の蔵書数や親の関わり、図書館利用頻度には格差がみられた。また、回答した保護者の９割は子どもが本好きになってほしいと回答していたが、実際に図書館を利用している世帯は３割に過ぎなかった。乳幼児期の本への関わりの多寡は、その後の読書習慣形成や学習意欲にも影響することが懸念された。

この結果から、読書習慣が希薄な家庭や読書環境が整わない家庭にこそ公立図書館に対する潜在的ニーズがあり、また、多様な家庭に育つ子どもの読書習慣の涵養には、家庭への支援を視野に入れた新たな枠組みでの読書支援プログラムが必要であると判断された。地域における社会教育施設の核である公立図書館の機能を活かして、母子保健や児童福祉の部署と連携し、これまで図書館を利用していない層や読書環境が整っていない家庭の未就学児やその保護者に向けた新たな読書支援プログラムを構築・実施し、その効果を実践検証することとした。

2　研究の内容（方法・経過等）

上記を踏まえて、北上市立図書館及び北上市保健・子育て支援複合施設hoKkoを研究フィールドに設定した。岩手県立大学や北上市立中央図書館及び母子保健等を担当する北上市子育て世代包括支援センターや保育園・こども園を担当する子育て支援課が連携して、以下の複合的読書支援プログラムを実施した。実施場所での参与観察や参加者へのアンケート調査、利用者集計などによりプログラムの効果を検証した。但し、コロナ禍で会場が閉鎖され使えなかったり、参集が難しかったりして当初の内容を修正して実施せざるをえなかった。また、参加人数も予定より大きく下回ったりしたため、コロナ禍の制約の下での実践検証とならざるを得なかった。

《複合的読書支援プログラムの内容》

（１）図書館開放による子どもの居場所の創出
（２）うれし野子ども図書室と連携した選書と配架の工夫
（３）子どもと本をつなぐ場所や人の創出
　①　乳幼児健診会場での絵本空間の創出
　②　乳幼児健診会場・おやこセンター（子育て支援センター）・ともしび号（自動車文庫）・図書館本館での良書の複合配架＝ワンフロアサービス
　③　アウトリーチによる館外図書ボランティア養成
（４）読書習慣形成支援と子育て支援の複合的な親支援プログラムの実践

図１　複合的読書支援プログラムの概念図

3　これまで得られた研究の成果

（１）図書館開放による子どもの居場所の創出

地域の会議で図書館員に向け「子どもが図書館に来るには、近隣に住んでいない限りは大人の協力が必要。何とかして一度来館する機会を作って、家庭で〝図書館は楽しい、連れてっ

て！″と子どもが大人にねだるようになったらいい」との意見が出された。コロナ禍の真っただ中で、従前実施していた図書館でのおはなし会等のイベントが中止になり、幼稚園・保育園でも遠足等の行き先がなく体験活動が出来ない。そこで、コロナ感染のリスクが少ない休館日に園ごとの貸し切り利用を行うこととした。当日は図書館職員２-３人が担当し、一人当たり３時間程度の時間外勤務で対応した。

20分程度のDVD上映の後、子ども達は自由に閲覧へ移る。いつもは静寂を要請される図書館だからこそ、自由にのびのび過ごしてもらうことを重視して実施した。友達に紙芝居を読んであげる子どもや、自分のペースで個別に楽しんでいる子ども、字は読めなくても写真や絵を見ている子どもなど、参与観察では様々に図書館を楽しむ様子が見られた。帰りには「また来てね」（再来館）のお誘いの「招待状」を渡し保護者へのアプローチを行った。保護者と再来館した時にはカードに子どもが喜ぶシールを貼り、次回の来館へのモチベーション醸成を工夫した。

・実施概要

【令和３年度】

実施時期：10月～11月、実施日数：計６日、参加園数:６園、参加人数：313人

【令和４年度】

令和４年度には再来館者のデータをとり、成果を確認した。

実施時期：10月～11月、実施日数：計６日、参加園数：８園、参加人数：380人、再来館者：107人（再来館割合28.2%,令和５年１月12日現在）

令和４年度は招待状の効果もあり、園児のきょうだいなども含め３割弱が再来館し、この機会に図書館利用の新規登録をする親子も見られた。利用者からは保育園・幼稚園と図書館のコラボによる楽しい体験が本や図書館を身近に感じるきっかけになったとの感想があり、生涯を通じて読書に親しむことに繋がればと期待されている。

写真１　子どもへの招待状と図書館開放の様子

（２）うれし野こども図書室と連携した選書と配架の工夫

地域協働研究の開始にあたり北上市立図書館では、盛岡市にあるNPO法人うれし野こども図書室と連携し選書アドバイスを受けて、長年読み継がれてきたベストセラー絵本（良書）の44タイトルを選書・購入した。その際、１タイトルにつき複数冊購入し貸し出し希望に対応できるようにした。絵本コーナーをリニューアルして令和４年度から子ども達に読んでもらう配架レイアウトを工夫し、来館者に向けてPRをして多くの子どもに良書を届ける工夫をした。その結果、令和４年度の北上市立中央図書館におけるベストリーダー（貸出利用が多い図書）が表１のとおり大きく変化した。表１の色付けしたものが配架の工夫をした絵本コーナーに置かれた選書である。これまで北上市の児童書のベストリーダーのほとんどが「ノンタン」「かいけつゾロリ」シリーズで近年変化がみられなかった。しかし、令和４年度には令和３年度のベスト10（表２）のうち実に９冊が「絵本コーナー」に配架された良書に入れ替わった。少しの工夫で多くの子どもに良書を届けられることが実証されたといえる。また、北上市立図書館の司書採用がなくなって数十年になり児童書の専門的なノウハウを持つ職員が少なくなっている中、今回のように専門性が高い他館のライブラリアンとの連携が有効であることも示された。

表１　令和４年度ベストリーダー

No.	書籍名	作者
1	はじめてのおつかい	筒井頼子・さく／林明子・え
2	ぱんだいすき	征矢清・ぶん／ふくしまあきえ・え
3	サンドイッチサンドイッチ	小西英子・さく
4	こんとあき	林明子・さく
5	みんなうんち	五味太郎・さく
6	あれこれたまご	とりやまみゆき・文／中の滋／絵
7	アリからみると	桑原隆一・文／栗林慧・写真
7	とんとんとめてくださいな	こいでたん・ぶん／こいえやすこ・え
9	かいけつゾロリのまほうつかいのでし	原ゆたか・さくえ
10	まるまる	中江辻子・さく

表２　令和３年度ベストリーダー

No.	書籍名	作者
1	かいけつゾロリの大きょうりゅう	原ゆたか・さくえ
1	アンパンマンアニメギャラリー	やなせたかし・原作
1	かいけつゾロリとなぞのまほう少女	原ゆたか・さくえ
4	ノンタンいたいのとんでけ～☆	キヨノサチコ・作絵
5	岩手県北上市のひみつ（児童向）	宮原美香・漫画
6	どうぶつだいすき！	アマナイメージズ　他・写真／LaZoo・デザインイラスト
7	かいけつゾロリのまほうつかいのでし	原ゆたか・さくえ
8	ノンタンいもうといいな	キヨノサチコ・作絵
9	かいけつゾロリのきょうふのプレゼンと	原ゆたか・さくえ
10	ノンタンしゃっくりひっくひく	キヨノサチコ・作絵
10	11ぴきのねこ ふくろのなか	馬場のぼる・著

（３）子どもと本をつなぐ場所や人の創出

① 乳幼児健診会場での絵本空間の創出

ステージＩの調査結果では北上市内の保育園・こども園に通う３歳児・５歳児の保護者のうち図書館へ足を運ぶ保護者は回答者の３割しかいなかった。年収が低い家庭ではさらに図書館利用率が下がるだけでなく、家庭での蔵書数も少ない結果で、子どもが家庭で本に触れる機会に制約がある状況であった。そのため、本研究では市内の親子のほとんどが参加する乳幼児健診会場に絵本と触れ合う機会を設けることとした。以前から４か月健診の際にはブックスタート事業を行っており絵本をプレゼントしボランティアが読み聞かせを行っていた。しかし、地域協働研究の開始時にはコロナ禍で読み聞かせは中止になっていた。

健診には必ず待ち時間があるし、乳幼児健診は３歳６か月

まで続くので、２～３歳向けに良質な絵本だけを置いた本棚があったら、図書館以外でも本に親しむきっかけづくりになる、そうした発案から健診会場へ職員が作成した小型可動式本棚の設置をすることとした。また、健診会場にはうれし野子ども図書室と連携して選書した絵本のみを配架し、DVD上映などは敢えて行わないで待合時間を「絵本空間」として創出した。

検証のため、健診にきた親子が実際にどの程度、健診室に設置した絵本を利用するかについて、観察を行って行動記録をとった。その結果、健診受診者の９割が絵本を手に取り、親子で読み聞かせを行う姿が観察された（表３）（写真２）。

写真２　健診会場で絵本と触れ合う親子（後ろが本棚）

③ 乳幼児健診会場・おやこセンター・ともしび号・図書館本館での複合配架（図書貸し出しのワンフロアサービス）

健診会場では直接絵本の貸し出しが出来ないため、関係者でアイディアを出し合った。健診会場のあるhoKko（北上市保健・子育て支援複合施設）館内には、おやこセンター（子育て支援センター）がありそこにも本のコーナーがある。また、hoKko館内にはともしび号（自動車文庫）が巡回乗り入れしている。この環境を利用し、図書館本館も含め計４か所で同じ良書を「複合配架」して、健診会場で気にいった本があればどこでも借りられるように設定した。絵本30冊を選書、４セット購入し、健診会場・おやこセンター・ともしび号・図書館へ配架した。健診を行っている保健師から声がけをしてもらうなどした結果、健診受診者のうち21.9％がともしび号を利用し、7.8％が実際に本を借りていった。このことから、図書館の外に出て、健診会場のような多くの親子が自ずと参加する機会を利用し、場の設定を工夫することによって、仮に課題を抱える親子であっても、親子が絵本と触れ合う機会を作ることが可能であることが示された。

また、この成果は保健福祉の複合施設hoKkoの中に移動図書館のともしび号が丸ごと乗り入れているという、保健・福祉・教育の３分野での空間共有が可能な施設だったことの意義も示したと考える。

④ アウトリーチによる館外図書ボランティア養成

ステージⅠの調査結果からは読み聞かせの時間が取れない家庭もあったことから、幼稚園・保育園・学童保育・学校や地域でおはなし会をしている図書ボランティアを子どもたちに絵本や本を届けるキーパーソンと捉え、館外に出かけてスキル向上を図る機会を設けた。学童支援員と学校図書ボランティア、地域の読書ボランティアを対象にした絵本の読み聞かせ講座を実施した。令和４年度は「読み聞かせの選書の悩みを解決－伸ばそう！広げよう！子どもの心～絵本の魅力とその役割」をテーマに、うれし野子ども図書室の高橋理事長を講師として、７/８、７/15、７/22の全３回実施。22人の参加があった。また、アンケートにより効果検証を行った。

表３　絵本空間の創出と複合配架の成果

日時	健診名	受診者（人）	健診室絵本利用者(組)	健診室→おやこセンター利用者数（組）※事前予約制	健診室→ともしび号利用者数（組）	うち、ともしび号貸出者数（組）
R4.9.21	2歳6か月健診	13	10	2	3	1
R4.9.30	3歳6か月健診	18	18	2	3	2
R4.10.13	2歳6か月健診	13	11	0	4	1
R4.10.19	2歳6か月健診	20	18	0	4	1
	合計	64	57	4	14	5
	割合（%）		89.1	6.3	21.9	7.8

（４）読書習慣形成支援と子育て支援の複合的な親支援プログラムの実践

ステージⅠの調査結果では読み聞かせや図書館に一緒に行くなど、保護者が子どもと一緒に本に関わることが子どもの本好きに影響していることが確認できた。加えて、先行研究では絵本の読み聞かせは親子の関係性にプラスに働き、子育てにも良い影響が生まれることが明らかになっている。一方でステージⅠの調査では、生活課題等により読み聞かせを行っていない家庭が一定数あり、家庭における子どもの読書環境に差が生じていた。各家庭にはそれぞれ教育に関する考え方があり、図書館としてそこにどう関わっていけるかは慎重に考える必要があるが、子どもに本を届ける一つの方法として、図書館が主催して子育て支援と読書支援の両方を意図した複合的な講座を試しにやってみることにした。講座の対象は未就学児０-５歳のお子さんを子育て中の母親とした。

講座は、カナダ政府が開発した参加型の子育て支援プログラム「ノーバディーズ・パーフェクト・プログラム（NPプログラム）」の構成を参考にデザインした。本家のNPは母親同士の話し合いを中心に参加型のグループワークで進められるが、北上方式ではこのグループワークに絵本講座や読み聞かせを組み入れて、子育ての話し合いと絵本の読み聞かせの両方を楽しみながら学べるオリジナルな内容とし、図書館を核とした、子育て支援（子ども家庭福祉）と読書支援（教育福祉）が融合した新しいプログラムを構築した。

講座の内容は概ね次の通り。毎週土曜日、１回２時間、計６回の連続講座で、参加者が子育ての話し合いをした後、各

回のテーマに沿った絵本を読み、感想を話し、その後、子どもと読みたい絵本を図書館から借りて自宅で絵本を楽しむ。

会場には各回のテーマに沿った絵本をレイアウトしておいた。茶菓とBGMでリラックスできる環境をつくり、心配なく参加できるように別室に託児を準備した。進行はファシリテーター（進行役+グループワークのサポート役）が行い、絵本のセレクトと絵本講話、絵本の読み聞かせは、盛岡市にあるNPO法人うれし野こども図書室の高橋理事長に協力依頼した。

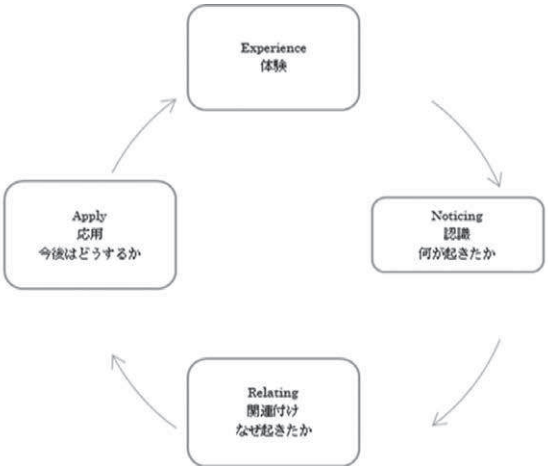

図２　NPプログラムの体験学習サイクル

写真３　講座参加の様子と託児

① 令和３年度の開催状況

・概要

ステージⅠの調査結果から、福祉・保健分野と連携した未就学児の親子を対象とした読書支援・子育て支援の複合的支援プログラムを実施し効果検証する計画を立てた。しかし、令和３年度はcovid-19の感染拡大により、予定していた保健・福祉の複合施設（hoKko）は利用不可となり、加えて、低年齢層の感染が拡大し参加者募集が困難な状況が続いた。やむなく11月-12月まで時期を繰り下げ、会場を北上市立中央図書館に変更し、子育て支援課及び北上市内の各公立保育園の協力を得て参加者募集するもコロナ禍で全く参加者が集まらず、課題を抱える家庭からの募集は中止した。一般家庭に対象を広げ、保育園からの声がけを行って辛うじて未就学児を育てる４世帯の母親の参加を得た。

・日時と参加者

日時：11月６日（土）～12月11日（土）の土曜日計６回
10:00-12:00の２時間
場所：北上市立中央図書館会議室　託児:図書館内別室
（hoKkoがワクチン接種会場となり急遽使用不可になったので、図書館で開催）
参加人数：４名　託児の人数：８名　ファシリテーター：２名　絵本講師：１名　保育者：４名

NPをベースにした北上方式でグループワークに絵本講座や読み聞かせを組入れて、子育ての話合いと絵本の読み聞かせの両方を楽しみながら学べるオリジナルな構成で行った。ファシリテーター（進行役）と一緒に、絵本を楽しみながら子育ての悩みや関心のある事柄について参加者同士で交流し自分なりの子育てを話し合い、併せて絵本選びや読み聞かせを学んだ。参加者で話し合った子育て方法を自宅で実践しつつ、自分で選んで借りた絵本で子どもに読み聞かせを自宅で行い翌週に実践の振り返りをした。託児はコロナ禍で託児サークルなどを依頼できなかったため、図書館員が担った。

・効果検証

毎回､参加者の振り返りを自記式の用紙に記載してもらい、最終日には全体を振り返り変化を記載してもらった｡併せて、初回と最終回（６回目）に子育て意識の尺度評価を自記式で実施した。本報告では、最終回に行ったプログラム評価についての分析結果を報告する。

・分析方法

分析手法にはSCAT (Steps for Coding and Theorization) を用いた。SCATを用いる理由は、比較的小規模のデータ分析に適用可能であることと、明示的で段階的な分析手続きを有することから分析過程が可視化でき、妥当性確認が容易であることによる（大谷,2019)。今回は質問紙調査の自由記述を分析対象としたため、福士・名郷（2011）が開発したSCATの活用法を参考に分析を行った。

・倫理的配慮

本学の研究倫理規定に基づき、研究の目的・意義や研究方法、被調査者の回答の自由及び匿名性の担保やデータの慎重な取り扱い等を説明し同意を得た。

・結果

最終回の各自のプログラム評価の内容についてSCATを用いて分析を行った結果は下記のとおりである。※紙面の都合で〈１〉テクスト中の注目すべき語句〈２〉テクスト中の語句の言いかえ、〈３〉左を説明するようなテクスト外の概念は省略して、テクスト及び〈４〉テーマ・構成概念のみを記載する。

【絵本を使った子育て支援プログラムについて】

参加者は６回のプログラムを通して、「絵本による寛ぎ」を感じながら参加し、「図書館員を介した親子での新たな絵本体験の広がり」や「新たな絵本との出会いと喜び」そして「絵本を介した親子の豊かな体験」を得て「子育て文脈での絵本

の理解」を実感していた（表４）。

表４　絵本を使った子育てプログラムについて

質問	各自の記述		テーマ・構成概念
絵本を使った子育てに関するプログラムはいかがでしたか	A	絵本を使うことによって、かたくるしくならず取り組むことができました。	絵本による寛ぎ
	B	知らない絵本に出逢うことができた。普段読まない絵本を手にとり、子どもと共有できた。子育てにおいて、やっぱり絵本は大切なんだと実感できた。	図書館員を介した親子での新たな絵本体験の広がり、子育て文脈での絵本の理解
	C	毎回のテーマに合った絵本を紹介してもらえたり、図書館の方からうちの子どもに合いそうな本を紹介してもらえて、自分では手にとらない絵本にふれることができてとてもよかった。	図書館員を介した親子での新たな絵本体験の広がり、新たな絵本との出会いと喜び
	D	絵本のおかげで子どもと私の世界が豊かになった。普段手に取らない絵本を読むきっかけになった。メンバーの感想を聞けたのもよかった。	絵本を介した親子の豊かな体験、図書館員を介した親子での新たな絵本体験の広がり

【絵本や子どもの本に関しての変化（見方、考え方、行動など）について】

参加者は「プログラムによる絵本理解の深化」を体験し、「絵本を通した子どもとのコミュニケーションの深まり」を味わって「親子で絵本の世界を堪能」したり「絵本への好奇心のさらなる触発」を親子で何度も体験したりすることで、絵本との関わり方の変化や親子の関わり方の変化を一緒に楽しんでいた（表５）。

表５　絵本や子どもの本に関する変化

質問	各自の記述		テーマ・構成概念
絵本や子どもの本に関してなにか変化はありましたか(見方や考え方、行動など)	A	今までは、絵の好みや決まった作者のものばかり借りていましたが、自分の伝えたいテーマや目的に沿った本がこんなに沢山あることを知りました。絵本で伝えることによって、お互いに（子供も親も）客観的に理解することができました。	プログラムによる絵本理解の深化、絵本を通した子どもとのコミュニケーションの深まり
	B	楽しい絵本がまだまだたくさんある。どんどん読みたい、見たい。	絵本への好奇心のさらなる触発
	C	今までなんとなく読んでいた絵本ですが、読みながら子どもの表情を見るようになりました。すると、絵本の世界にひきこまれているのが伝わって、それが嬉しく、最近は毎晩子どもと3人で絵本の世界に飛びこむ楽しさを味わっています。	絵本を通した子どもとのコミュニケーションの深まり、親子で絵本の世界を堪能
	D	もともと、子どもも私も絵本が好きだったけど、もっと好きになった。「もっとよみたい」「つぎはなにかりてくる」「もういっかいよんで」をこの6週間何度も聞きました。	絵本への好奇心のさらなる触発

【図書館に関する変化について】

参加者にはプログラムを通した意識の変化、「参加による図書館への親和性の増加」がみられた。また、「利用意欲の高揚」や「企画や展示による触発」を受けていた。

表６　図書館に関する変化（見え方や捉え方など）

質問	各自の記述		テーマ・構成概念
図書館に関してなにか変化はありましたか(見方や捉え方など)	A	今までも利用する機会は沢山ありましたが、今回参加したことで絵本は勿論、図書館がより身近なものになりました。	参加による図書館への親和性の増加
	B	ますます図書館が好きになりました。どんどん借りて、絵本を楽しみたいです。このような企画があると楽しいです。やはり、表紙が見えて並んでいると借りたくなります。テーマごとの展示があると借りたくなります。	参加による図書館への親和性の増加、利用意欲の高揚、企画や展示による触発
	C	元々、図書館は好きなのですが、ここ数年は子どもが一緒だと静かにさせないと、という気持ちが大きく、行ってもどうせゆっくりえらべないからとあまり利用していませんでした。この機会に、図書館で本を選んでいる時のわくわくする気持ちを思い出し、また利用機会を増やしていきたいです。	以前は子ども同伴での利用に遠慮、参加による図書館への親和性の増加、利用意欲の高揚
	D	図書館はうちの書庫。これからもどんどん利用します。	参加による図書館への親和性の増加、利用意欲の高揚

【プログラムに参加しての変化（ものの見方や考え方、行動の変化など）について】

プログラムを通して参加者には「子どもとの接し方の肯定的変化」がおこり、「子育てに関する多様な視野の獲得」についても共通して認識されていた。また、「夫との関係性の肯定的変化」も生まれていた。

表７　プログラムに参加しての変化(見方、考え方、行動など)

質問	各自の記述		テーマ・構成概念
プログラムに参加してなにか変化はありましたか(ものの見方や考え方、行動など)	A	しかり方に対しても、おだやかに伝わるようにを念頭におけるようになりました。物事をいろんな方向からみれるようになりました。（悪いことをしてうそをついて隠す。悪いことをした自覚があるのは良いことなど）	子どもとの接し方の肯定的な変化、子育てに関する多様な視野の獲得
	B	他の方の考え方や、どんな子育てをしているかを知ることが出来て良かったです。客観的に見ることも必要だと感じました。	子育てに関する多様な視点の獲得
	C	子育てをする中で気持ちに余裕がなかったり、つい効率を求めてしまい、子どもの顔を見ていなかったなと気がつきました。子育てまっさい中の方、先輩方の話を聞いて、今しかないこの子どもとの時間をもっと大切にしたいと思えるようになりました。まだまだですが、前よりは気持ちに余裕ができたかなと思います。	子どもとの接し方の肯定的な変化、子育てに関する多様な視野の獲得
	D	子どもを見ているだけの時間が増えた。子どもも考えてその行動をしているのだと気づけた。叱る必要がいないと気づく。夫と話す機会が増えたし、夫と前より仲よくなれた。	子どもとの接し方の肯定的な変化、子育てに関する多様な視野の獲得、夫との関係性の肯定的な変化

【その他の評価について】

参加者が最も印象に残っている（役立った）セッションは「しつけやしかり方」が３名、「性教育」が１名だった。いずれも「子どもとの関わり方の変化」がその理由で、絵本を通して大切なことを伝えていくことの重要性やメンバー同士の交流によってコミュニティ・ビルディングが図られたことへの感銘も挙げられていた。その他の自由記述では、主体的なグループでの学び体験、人生が変わるほどの影響、託児で自分自身に戻れたことへの感謝など、「自分自身の成長機会への感謝」が確認された。

② 令和４年度の開催状況

令和３年度に引き続き、カナダのノーバディーズ・パーフェクト・プログラム（NPプログラム）の構成を参考にデザインした家庭での読書習慣形成支援と子育て支援の複合的な親支援プログラムの実践を行った。

・日程と参加者

日時：11月26日（土）～12月24日（土）の土曜日計５回
10:30-12:30の２時間　※会場都合で１回減数
場所：北上市保健・子育て支援複合施設hoKkoふれあいルーム（託児は、ふれあいルーム別室）
参加人数：４名　託児人数：８名　ファシリテーター：１名
絵本講師：１名　保育者：４名

令和４年度は、hoKkoふれあいルームを会場に、11月26日～12月24日までの毎週土曜日の10時～12時、１回２時間、計５回を実施した。市内の保育園等での声がけや北上市の公式SNSを用いて参加者募集を行い、託児には本学の保育資格のある教員１名と北上市内の専大北上福祉教育専門学校の学生が保育者として参加した。また、おもちゃは館内のおやこセンターから借りるなど、地域の関係機関で連携して講座を実施した。残念ながらコロナ禍のため、参加した母親は４名であったが、アンケートの結果からは「自分だけで頑張りすぎない」「頼ってよい」「携帯やテレビを見ず自分の時間を持つ」「子どもとの時間が増えた」「子どもも考えて行動していると理解できた」「子育ての改善策や行動を話し合って、気持に余裕が出来た」など子育てに関する成果に加え、「絵本を読む時間が大人にも子どもにも大切なホットする時間」「絵本を読み自分も感動、子どもにもたくさん読んであげたい」「ほぼ毎日読むようになった」「読みながら子どもの表情をみると、嬉しくて毎晩、子どもと絵本の世界に飛び込む楽しさを味わっている」などと書かれており、また、絵本や子どもの本に関して変化があったかという質問には100％があったと回答し、読み聞かせや絵本に対する肯定的で前向きな感想に加え、子どもとの関係性にもプラスの影響が生まれていることが把握できた。

③ ２年間を通したプログラム評価

２年間の講座参加者計８名のプログラムの全体評価の４項目、１）絵本を使ったプログラムの全体評価、２）プログラムに参加して子育てに変化があったか、３）絵本や子どもの本に関して変化があったか、４）と予感に関して変化があったか　について、５件法での評価結果は表８の通りである。

表８　絵本を使った子育て講座の効果　　N=８

項目	評価	人数	%
絵本を使ったプログラムの全体評価	とても良かった	8人	100%
プログラムに参加して子育てに変化があったか(見方や考え方、行動など)	とてもあった	7人	87.50%
	まあまああった	1人	12.50%
絵本や子どもの本に関して変化があったか(見方や考え方、行動など)	とてもあった	8人	100%
図書館に関して変化があったか(見方や捉え方など)	とてもあった	4人	50%
	まあまああった	2人	25%
	どちらでもない	1人	12.50%
	回答なし	1人	12.50%

※とても良かった（あった）、まあまあ～、どちらでも～、ほとんど～、全然ない

アンケート結果からは、プログラム参加後の子育てや絵本に関する意識・行動にプラスの変化があったこと、図書館への意識も変化したことがわかる。なお、図書館に関する変化がどちらでもないと回答した方は、もともと図書館が大好きで親和性が高かったため、どちらでもないと回答したことが自由記述から確認できた。

次に質問１）～４）の自由記述欄の記載を、分析ソフトKHCorderを用いて計量テキスト分析をした。ここでは、特に２）子育てに関する変化、３）絵本や子どもの本に関する変化に関する回答について、共起ネットワーク（語と語が共に出現する関係性を図示したもの）を用いて確認する。

【参加者の子育てに関する変化】

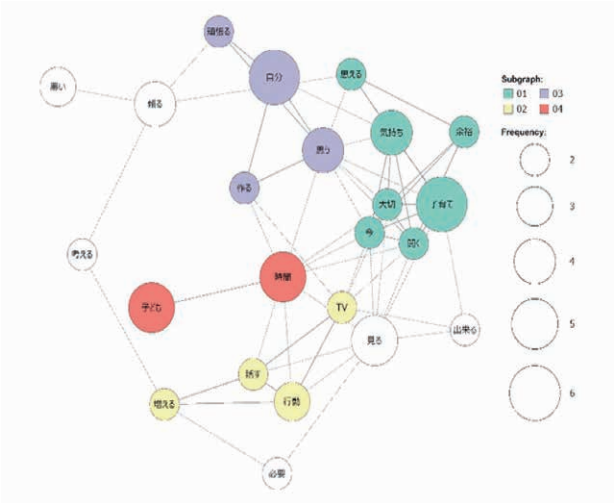

図３　子育てに関する変化
※２回以上使用の上位19語

主な自由記述の内容は「自分だけで頑張りすぎない、頼って良い、携帯やテレビを見ず自分の時間をつくる」「子ども

との時間を大切にしたい、子どもとの時間が増えた」「子どもも考えて行動していると理解できた、子どもをどうとらえるかは自分次第」「子育ての改善策や行動を話し合って気持ちの整理、気持ちに余裕ができた」というものだった。参加者は講座で「話し合う」ことを通して「頑張らずに頼る」「子どもと自分の時間の大切さ」「子どもの理解」「自分なりの子育て」を体得し、気持ちに変化（ゆとり）が生まれたことがわかる。

【参加者の絵本や子どもの本に関する変化】

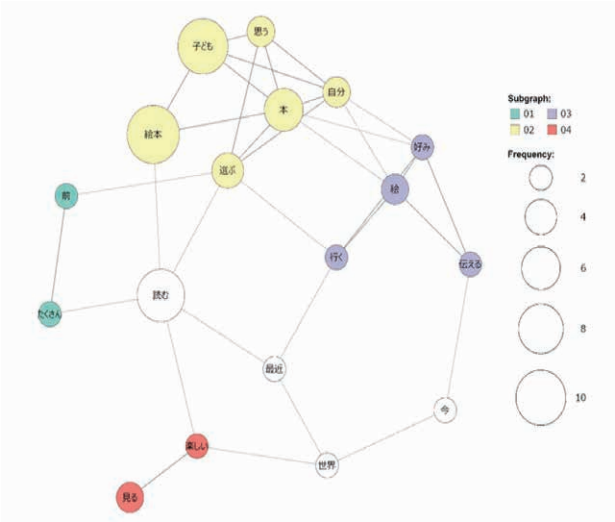

図４　絵本や子どもの本に関する変化
※２回以上使用の上位30語

主な自由記述の内容は「絵本を読む時間が大人にも子どもにも大切なホッとする時間」「絵本を読み自分も感動、子どもにもたくさん読んであげたい、ほぼ毎日読むように、絵本が身近に」「新しい本と会えた。楽しい絵本がたくさんある。絵本に出てくるように子どもとつきあってあげたい」「読みながら子どもの表情を見ると、うれしくて毎晩子どもと絵本の世界に飛び込む楽しさを味わっている」「子どものもう一回読んで をこの６週間何度も聞いた」などであった。「絵本の魅力」「楽しさや多様性」に気づき、「子どもと絵本」「絵本と自分」や「絵本で伝える」楽しさ、絵本を通して世界が広がっていることが分かる。

このように、講座でのグループワークや自宅での体験を通して、子育てや絵本に対する考えや行動に変化が生まれていることがわかり、満足度の高さも伝わってくる。また、単なる子育て講座ではなく、絵本という媒介を通して親子の関係に深さやひろがりが生まれている。

4　今後の具体的な展開

以上のように、複合的読書支援プログラムを実践検証した結果からは、図書館だけでなく地域に出かけて多様な読書支援プログラムを関係機関と連携しながら複合的に実施することで、これまで本に触れてこなかった家庭の子どもや保護者を対象とした読書習慣形成支援や子育て支援に一定程度の効果があることが把握できた。

ただし、コロナ禍での実施だったこともあり例えば親支援プログラムの参加者が極めて少なかった等、検証には限界があった。そのため、今後も同様の取り組みを継続実施していくことでさらに効果検証を積み重ねていく必要があると考える。また、《複合的読書支援プログラム》の（１）～（３）は図書館予算や関係者により実施可能だが、（４）読書形成支援と子育て支援の複合的な親支援プログラム　に関しては、別途、予算対応や人的資源が必要であり、母子保健や児童福祉の関係各課や関係機関との連携が必須であるため、今回の成果は関係各課にも周知したところである。今後も地域の読書環境の改善に寄与していくためには、公立図書館自身が積極的にアプローチを図り部局横断の事業として継続実施していくことが肝要だと考える。また、本実績報告書とは別に、《複合的読書支援プログラム》のメニューや詳細な実施手順、各事業のコスト、事業成果・評価なども含めて記載した「絵本と子どもとその未来：子ども本～図書館と育む地域子育てコミュニティ」と題した冊子を刊行して、県内各自治体の公立図書館に配布を行った。他の自治体や図書館でも図書館と保健・福祉との連携事業の参考になれば幸いである。

5　謝辞

今回の協働研究を遂行するにあたり､北上市立中央図書館、北上市子育て世代包括支援センター、子育て支援課、北上市保健・子育て支援複合施設hoKko、北上市内の保育園・こども園・幼稚園、専大北上福祉教育専門学校の皆様にご助力を頂きましたことに心から謝意を表します。また、NOP法人うれし野こども図書室の高橋美知子理事長のご協力なしには遂行できなかった事業だと思います。この場を借りて心から御礼申し上げます。

文献

秋田喜代美, 1992, 小学生の読書行動に家庭環境が及ぼす影響, 発達心理学研究３（２）90-99

Frey, B.Benesch, C. & Strutzer, A, 2005,Dose watching TV makes us happy? Institute for Empirical Research in Economics University of Zurich Working Paper Series, 241, 2-40

福士元春・名郷直樹, 2011, 指導医は医師臨床研修と帰属意識のない研修医を受け入れられていない–指導医講習会における指導医のニーズ調査から–　医学教育42（２）65-73

Jeffcoat, T. & Hayes, S. C. 2012 A randomized trial of ACT bibliotherapy on the mental health of K-12 teachers and staff. Behavior Research and Therapy, 50, 571-579

久野和子, 2016, フィンランドにおける「第三の場」(third Places）としての図書館 神戸女子大学文学部紀要　49巻 101-114

大谷尚, 2019, 質的研究の考え方–研究方法論からSCATによる分析まで　名古屋大学出版会

櫻幸恵, 2023, 岩手県立大学社会福祉学部紀要 第25巻　84-87